

春日部駅付近連続立体交差事業で 便利に、仲よく、幸せになる

石川良三市長と東武鉄道の牧野修専務取締役鉄道事業本部長にご登場いただき、市と鉄道との連携による春日部のこれまでの10年、そして今後の10年について語っていただいた。



AR動画。詳しくは裏表紙をご覧ください。

kasukabe PROJECT:08 春日部駅付近連続立体交差事業

春日部駅付近には東武スカイツリーラインと東武アーバンパークラインを合わせて10カ所の踏切があり、東西交通の円滑化と安全性の確保が課題。さらに、駅周辺の中心市街地が鉄道で分断されているというまちの構造は、まちのさらなる発展を抑制。これを解決するために、事業主体の埼玉県とともに平成29年度都市計画事業認可を目指している。

石川 牧野専務は春日部高校のご出身。当時と比べて駅周辺はどうですか。

牧野 昔は駅周辺にも畑があつてのどかでした。春日部はずいぶん変わりましたね。市としてみると、今は市内に8つもの駅がバランスよく配置されている。なかでも、春日部駅は当社にとって主要な路線2つが交わる拠点性の高い駅。10年前から比べると利用者が5%も増えています。利便性を高めれば、利用者も住民も増えると思います。

石川 ありがとうございます。

東武鉄道さんは、東武伊勢崎線に『スカイツリーライン』と



いう愛称をつけるなど、ここ10年でスマートなイメージになりましたね。沿線の市とコラボしてまちをよくしていこうという姿勢も強く感じます。東京スカイツリータウン®には春日部の大凾も飾ってもらいました。コラボして、沿線を押し上げていくことで、1+1が3にも5にもなると思います。



牧野 修さん

東武鉄道専務取締役鉄道事業本部長。春日部高校卒業。昭和45年から40年近く通勤や通学で毎日春日部駅を通っていた。

石川良三市長

春日部市と庄和町が合併した平成17年に春日部市長に当選。以来3期を務める。「日本一幸せに暮らせるまち、春日部」を目指す。

まずは春日部駅の高架化を少しでも早く推し進めたい

石川 現在、東武鉄道さんに関連する市の重要な事業の一つが鉄道の連続立体交差事業。平成29年度の事業認可を目指していますが、完成すれば、春日部だけでなく、沿線全体がパージョンアップするでしょう。

牧野 私どもにとっては踏切の廃止になりません。それによって交通渋滞を解消し、まちの分断が解消されます。まずは、早く春日部駅の高架化に着手できるように協力したいですね。

石川 それはありがたい。駅の高架化でまちの印象がまるつきり変わります。

牧野 鉄道会社は地域とともに成長してきました。できるだけ、のことはしたい。

例えば、28年度からは、大宮ー春日部間の急行運転が始まり、東武スカイツリーラインと東武アーバンパークライン(野田線)の直通運転も計画しています。大宮には新幹線が停まりますので利便性が高まります。新型車両の導入も進めている。新しいことで沿線の皆さんに笑顔になっていただきたいです。



石川 今、春日部市はコンパクトシティを目指しています。中心部に重要な機能を集め、利便性や地域のポテンシャルを高めようとしている。春日部駅の近くに新病院も作っているところ。子育て、ショッピング、レジャー、医療など、どんなことも春日部に行けばことが足りる。同時に自然や歴史・文化も享受できる。そんな地域にしていきたいですね。